

令和8年3月27日

丹波市議会議長 谷水 雄一 様

総務文教常任委員会
委員長 広田 まゆみ

委 員 会 調 査 報 告 書

本委員会において行った所管事務調査の結果について、別紙のとおり、丹波市議会会議規則第109条の規定により報告します。

1 調査事項

高齢者学級の運営に関する事項

2 調査の目的

令和7年11月14日に高齢者学級3団体から「高齢者学級の運営に関する要望書」の提出を受けた。高齢者学級は、生涯学習基本計画に基づく活動であることから、市当局が改正しようとする補助金要綱がその趣旨に沿ったものかを含め要望書内容を精査するために所管事務として調査を行った。

3 調査の経過

(1) 本件の経過

- 令和7年11月14日
議長に高齢者学級3団体（丹波市氷上寿学級、市島OB大学、春日さわやか学級）から要望書が提出された。
- 令和7年11月28日
議会運営委員会において「高齢者学級の運営に関する要望書」を総務文教常任委員会の所管事務調査として委員会で審査することを決定した。
- 令和7年12月4日
要望書の確認を行い、市当局・要望者の双方から説明を聞くことを確認した。
- 令和7年12月10日
課題整理のため委員間協議を行った。
- 令和7年12月15日
市当局に出席を求め質疑を行った。
- 令和7年12月19日
要望書提出者である高齢者学級3団体に出席を求め質疑を行った。
- 令和7年12月24日
第143回定例会において、「高齢者学級の運営に関する事項」を閉会中の継続審査（調査）事項として議決をした。
- 令和8年1月19日
双方から聴取した内容と提出された資料に基づき、調査方針を協議し、再度、市当局に説明を求めることを決定した。
- 令和8年2月4日
市当局に出席を求め質疑を行った。
- 令和8年2月25日
課題整理及び意見のとりまとめ方について協議をした。
- 令和8年3月9日
調査報告書（案）について、内容の確認をした。
- 令和8年3月18日
調査報告書（案）について、整理をした。

(2) 調査項目

提出された「高齢者学級の運営に関する要望書」に基づき、市当局並びに要望者の双方に聞き取りを行い、要望書に基づく事実等を確認した。

主な意見

ア 要綱の見直し案について

- ・丹波市生涯学習振興補助金交付要綱の見直しという高齢者団体に限らない広範囲の関係者に及ぶ事項ながら、その見直し内容が具体的にわからない。
- ・市内各地域の高齢者学級の分断が起こらないか危惧している。
- ・高齢者団体については、1地域1団体を限定しており、生涯学習基本方針の「市民誰もが学べる環境の整備」という方針に合っていないのではないか。
- ・自立している団体の場合は、地域に複数あってもよいのではないか。
- ・関係団体に最終的な合意が得られていない中、強行に押し進めようとするところに問題があると感じている。
- ・新しい補助金の額の計算(会員一人当たり単価)が、理に適っており、一番運営しやすいのではと思う。
- ・公用バスの活用ができない内容については、補助対象経費の中に入れ込むという代替案も示されており仕方ないのかとも思う。
- ・会員数が減ると補助額は減るが仕方ないことではないか。現時点での会員数で計算した場合、多くの団体は増額となる。
- ・新しい補助金の額設定では、自主運営を推進する考え方とは運営費の点で理論的に合わないように思う。
- ・各学級の運営方法、実情が違う中、一方的な経費の削減だけを念頭においた(補助金の)計算だと思える。
- ・補助要綱において、補助対象となる経費についての条件や限度額などを詳細に記載し、透明性の高い要綱であるべき。
- ・高齢者に限らず生涯学習活動を行っている団体は補助金に頼らない自主運営を行っていることも留意すべき。
- ・人(会員)が減れば、補助金が減るのは当たり前である。

イ 移動手段について

- ・運転免許返納等に伴い、移動手段が狭まることで外出することが難しくなる高齢者特有の課題がある。学習場所は居住地に近いほどよいがそうもいかない。
- ・公用バスが利用できなくなると活動自体をあきらめることになり、会員数が減少する。高齢者団体・生涯学習が継続して行けるためには引き続き必要ではないか。
- ・公用バスの利用は今の基準では難しい。しかし、他の方法を考えるべきだと言えるのか。

ウ 高齢者学級（自主運営）の将来的な視点について

- ・生涯学習としての機能が持続可能な制度になることが大事だと思っている。
- ・丹波市としても、地域高齢者学級が継続して運営できるよう支援することは、地域の高齢者がつながり、元気に、生きがいのある生活環境を後押しするためにも行政の重要な使命であると考えていることがわかった。
- ・高齢者学級と市当局との関係は今後も良い状態であることが大事だと思う。
- ・市当局、要望提出者の双方に対して、今後ニーズの多様化、変化に対応することも思慮に入れつつも、持続可能な将来の運営形態について理解が深まるよう協議していただきたい。
- ・要望者は、経費を抑えて効率的な運営ができる視点をもう少し考えていただきたい。
- ・市当局も自主性を重んじるなら、伴走型でしっかりやっていただきたい。
- ・当局及び高齢者学級の合意形成が取れていないことから、移行期間については必要だと思う。

エ 対話の重要性について

- ・話し合いにおいては、わだかまりや疑念の解消に努めて、お互いに建設的な議論ができるように努めていただきたい。
- ・要望者は、市への要望が統一かつ明確になるように文章で示していただき、市当局との話し合いの場ではその文章に沿った内容で補足説明をいただく必要を感じた。
- ・要綱に関しては行政当局に決定権があると発言されていて、それはその通りだとは思いますが、十分話し合いをしていただきたい。

オ その他

- ・20年近く自主運営されてきた丹波市高齢者学級は、かなり重要な活動をされていると感じた。
- ・補助金や活動内容について、他市が実施する直営の高齢者学級やTAMBAシニアカレッジとの比較はできないのではないかと。
- ・要望書に基づいて調査をすすめると、要望書の4項目のうち、特に3番目の項目は今回のこの要望書では取り扱えないと思う。
- ・平成30年の100条委員会の補助金の不正受給にかかることで「公平な事務執行をすべきである」と議会から提言していることは念頭に置くべき。
- ・丹波市での補助金への考え方の基準をある程度明確にして、補助金のガイドラインを策定すべきであると記載してはどうか。
- ・ガイドラインが補助金の交付要綱なので、「ガイドラインを策定すべきである」は記載しなくても良い。
- ・公用バスの移動支援は、高齢者に対する支援として必要であるこ

とは認識としてあるので、意見として加えてほしい。

- ・各団体を事務局窓口にすることについては、いずれはそうすべきだが移行するための準備期間が必要だ。

- ・高齢者学級がどういう意味を持っているのか、生涯学習の在り方をふまえつつ、話し合い手順をもって新要綱に移っていくのが本来の在り方かと思う。その部分を報告書に入れてほしい。

- ・11月から委員会が調査を行っているが、市当局が委員会の調査結果を待たず、新要綱ベースで予算提案していることを今回の調査の中で知ることになった。

- ・丹波市生涯学習振興補助金交付要綱の見直しという高齢者団体に限らない広範囲の関係者に及ぶ事項なので、委員会に方向性を報告するなり、市民を念頭に置いた進め方ができなかつたのかと感じる。

- ・市への聴取により要望書で提出された「県下各市町の2024年度高齢者学級の実態調査の分析」のデータは、主に直営等によるものが大半であるので、自主運営事業と比較するのは適当でない。

- ・「県下各市町の2024年度高齢者学級の実態調査の分析」は、あくまでも団体が自主的に調査された。正確かどうかという議論にはなじまない。

4 調査の結果

丹波市生涯学習基本計画によると国の第4期教育振興基本計画、県の第4期ひょうご教育創造プランを参酌し、丹波市自治基本条例理念を具現化するための生涯学習推進のあり方がまちづくりを参画する人づくり、つながりづくりに生かしていくことを謳っている。

また、丹波市発足以来、公民館活動を通じて生涯学習に取り組んでこられた自主活動団体についても、この基本計画を推進する大きな力になっており、今回、要望書を提出された高齢者学級3団体も、知識循環型生涯学習の中で、長年にわたり、人づくり、学びの場づくり、地域づくりに生かせる学習活動を続けてきた実績がある。

今回、提出された「高齢者学級の運営に関する要望書」に基づき、本委員会では令和7年12月4日から令和8年2月25日までを実質の調査期間として調査を行い、その間に市当局から2回、要望者からも最初の説明を含めて2回の意見聴取を行った。

委員会では、要望書に添付された「県下各市町の2024年度高齢者学級の実態調査の分析」について、市当局に質問した中で元データに要求根拠の妥当性がないという意見と、団体が自主的に調査した参考資料としての取扱いが妥当ではないかという意見があった。

学習活動に対する支援を求める要望であったり、相談は書面であったり、面談等対話を通じて穏便に行われることが通例と考える。

については、高齢者学級3団体、市当局に対してそれぞれに意見を付す。

(1) 高齢者学級3団体に対して

自らの学ぶ喜びが人をつなげ、そのつながり地域づくりにも生かされ

る生涯学習社会の理念の下に活動を続けられてきたとおり、そこには、「対話」と「理解」の中で活動の輪を広げられてきた実績があると思う。

生涯学習基本計画に示されているとおり、「楽しく学ぶ」「ワクワクしてつながる」「一緒にやってみる」ことを軸に、こどもから大人までが対話を通じて学びの土壌を豊かにする実践者として、模範となる率先力を期待する。

人的にも経済的にも、共に運営する会員の役割分担やできることを連携しあう関係がなければ難しい現実はあるかと思うが、まずは、団体会員同士での協議の場の調整をされたい。

(2) 丹波市に対して

丹波市生涯学習振興補助金交付要綱の見直しは、丹波市生涯学習基本計画に基づくことが重要である。高齢者団体に限らない広範囲の関係者に及ぶ事項であることや、高齢者団体に関する見直しであるとしても、市民に与える影響を考えて委員会に方向性を報告するなど、市民を念頭に置いた進め方ができなかつたのかと思う。

委員会での審議を踏まえ、総じて要綱見直し案は、市当局及び高齢者学級の双方の合意形成が図れるよう十分議論されたい。また、高齢者学級関係団体の分断を招くことのないように配慮されたい。そして丹波市生涯学習振興補助金交付要綱における補助金への考え方や基準を明確にして、公平な事務を執行されたい。